

ちちぶだより



火事をみつけたら まず、周りの人に大きな声で知らせます

2024年 第345号

◆令和6年 新年のご挨拶	齋藤 晴美	2
◆支援力を上げるために		
○支援の枠組み作り 職員研修の体系化	村上 功二	2
○心理療法士による専門的支援	坂寄 里紗	4
◆防災訓練		
○合同防災訓練	茂木 康平	4
○非常食訓練	島田 結実	5
◆ボランティアへ感謝状		5
◆各寮の様子 秋冬編		
かりん寮	上小路希美	6
けやき寮	星 湧人	6
どんぐり寮	仲川 正徳	6
	土屋 麗	
くぬぎ寮	須永 貴之	7
◆熊澤先生のゆる～くかた～く		
「心にも貯金が必要だよね」	熊澤 海道	8
◆児童・職員の動き 行事予定		8

令和六年 新年のご挨拶

次長 齋藤 晴美

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

これまで新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者、職員、関係者の皆様には、大変なご心配やご負担をおかけしてきましたが、昨年五月に、新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、秩父学園においては、感染防止対策に気をつけながら、花火大会等の行事を実施したり、面会や外出の制限を緩和することで、少しずつ活気が戻ってきたような気がします。

今年三月には民間団体にご協力をいただき、園内においてコンサートの開催を予定しております。令和六年は、こども達も職員も楽しめる催しを企画できたらと思っています。また、職員の皆様には、他の障害児関係の施設などとの情報交換や交流の場を創出し秩父学園の外に視野を広げていただくことで、秩父学園における支援の向上につなげていただきたいと考えています。

現在、秩父学園には、高校一年生以上のこどもが二十九人（令和六年一月一日現在）入所しています。このため、これまで以上に、成人後の生活を見据え、地域移行支援に向けた取組を展開していく必要があると考えています。こども達が秩父学園を退園後、それぞれの地域に戻り、秩父学園での経験を活かし、自立した生活を送ることができるよう全力で応援していきたいと思っています。

秩父学園における日々の支援や活動は、国立

障害者リハビリテーションセンター第三期中期目標において、運営方針や組織目標を定め、計画的に実施されています。令和六年は、この第三期中期目標の最終年となります。

新たな中期目標がスタートする令和7年度より、現行の年齢や性差による寮運営から、児童の課題や行動化の状況、必要な支援等に着目した寮編成に見直すこととしており、令和6年は寮再編の準備を本格的に進めてまいります。

本年も保護者の皆様、関係機関の皆様と私ども秩父学園職員が共に、こども達の未来を育んでいく大切なパートナーとして、秩父学園の取組を応援していただきますようお願いいたします。



支援力を挙げるために

療育支援課 発達支援主事 村上 功二

支援の枠組み作り

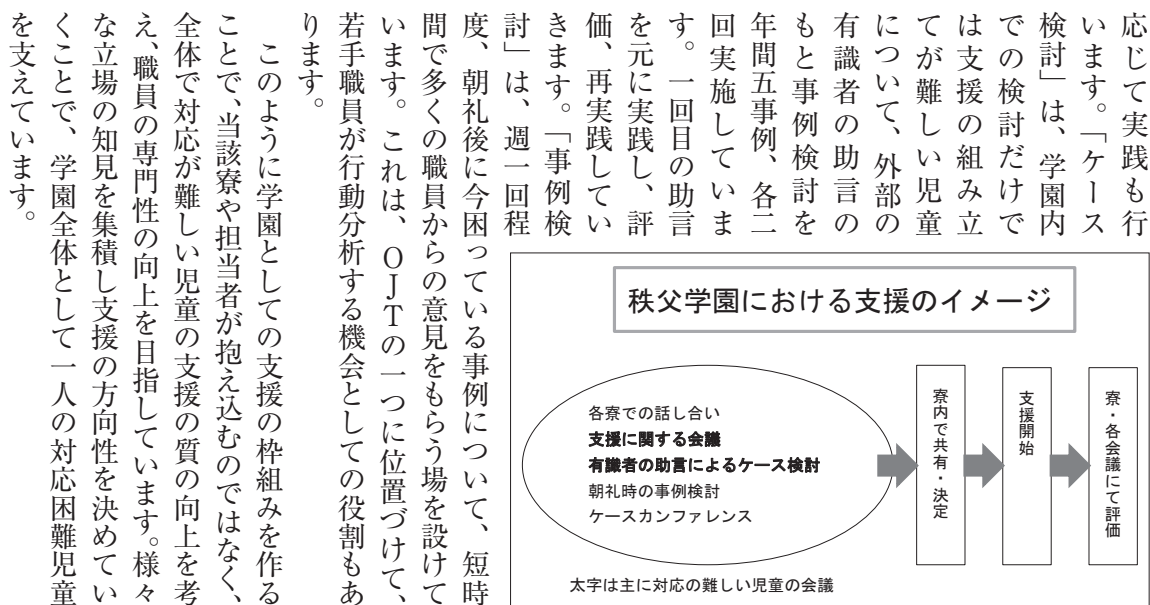
秩父学園には四つの生活寮があり、それぞれに十名程度の職員が配置され、チームで支援しています。チーム支援の一方、各児童に担当の職員を決め、その児童の支援の中心になっていきます。担当を決めるメリットは、児童との愛着関係を作り、安心安全基地として信頼関係を築

きやすくなります。しかし交代制勤務のため担当職員が毎日いるとは限らず、関わる全ての職員での支援の統一が難しいケースや、支援が上手く行かず担当職員が抱え込んでしまうケースもあります。秩父学園には、対応が難しいケースを中心に支援のあり方を全国に発信していく役目もあります。そのため欠かせないのがチームや職員一人ひとりの支援力を上げることです。

秩父学園では児童の支援を様々な枠組みから計画、実行、評価（再評価）しています。個別支援計画作成、各寮での会議や日常的打ち合わせ、支援に特化して話し合う会議、ケースカンファレンス、事例検討など日常的に行うものや設定して行うものがあります。

中でも対応の難しい児童（①強度行動障害・その他で支援の組み立てが難しく、支援の準備・評価にも時間を要する児童②特定の行動で困っている児童）に関しては、「支援に関する会議」「（識者の助言に基づく）ケース検討」「（全部署参加対象の）事例検討」で広く意見交換やスーパーバイズを行っています。

「支援に関する会議」は、二つの目的があります。①愛着・行動障害・被虐待等重複合併の難しいケースについて取り組み、併せて当該児童の家族に対するサポートを行う。②強い行動障害等により、登下校や授業の出席が困難な児童に対して、機会の保障を図るべく関係機関に働きかけを行います。月一回程度、該当寮職員に加えて、心理療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職、発達支援主事が参加し、行動の分析、支援計画・実践・評価を中心に、必要に



職員研修の体系化

職員研修は、職員の資質や支援力を高めるために大きな役割があります。

令和四年度までは新任研修やサービスマネジメント等研修など必須とされる研修とステップアップ研修（採用三～七年目対象）以外は、職員の希望に沿う形を主軸に進めてきました。しかし、組織内での経験年数や職務別に必要な専門性の獲得に個人差が出るなどの課題がありました。そのため研修推進チームを作り、研修を体系的・組織的に行なうよう令和五年度始めに見直しました。マニュアルを作成して高い専門性を持って業務に臨めるよう、特にOJTを体系化し具体化しました。今年度から開始し、できたものや今後取り組みものがあって評価はこれからですが、全職員が見通しを持って研修できるように考えています。

内容は、以下①内部研修②外部研修・講習会③eラーニング・オンライン研修④OJTです。

①内部研修 園内講師による研修会、普通救命講習会、虐待防止研修会、研修報告会やケース検討会などに参加します。

②外部研修・講習会 外部の研修に参加します。また、児童心理治療施設、児童自立支援施設、児童発達支援センターなどの見学や意見交換を行います。受講を希望する外部研修がある場合は要望をあげ、その都度検討します。

③eラーニング・オンライン研修 希望や指名により受講します。

④OJT 以下のA～KをOJTと位置づけ、経験年数や職務に沿って行います。

A 研修会等講師

A・1 外部研修会等講師

・国立障害者リハビリテーションセンター学院

研修会の企画、運営を行います。

・発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポートを行います。

・研修会講師、支援者相談、ケース検討会助言者として他事業所へ派遣されます。

A・2 内部研修会等講師

寮内の担当者がコメディネートし、実施する寮内勉強会の講師を努めます。

B 事例報告

①支援の事例を寮や部署単位で、園内の事例報告会にて発表します。

②発表した事例を秩父学園の事例として国立障害者リハビリテーションセンターの業績発表会で発表します。

③必要に応じて外部の学会等で発表します。

C 研修報告 園内の研修報告会で報告を行います。

D 外来療育及び訪問支援のスタッフとして業務にあたります。

E 事例集の作成、ホームページなどへの掲載

上手くいったりいかなかったりした支援や、ケースカンファレンス、検討会に挙げたケースなどの支援経過をまとめ、事例を集積します。

F 行事の起案 学園全体や部署ごとの行事の計画を立てて中心となって実施します。

区分	OJT内容	該当職
	各領域可能な範囲で行う	看護師 療養士
1	C G E J K	非常勤 再任用
2	C G E J K	採用から3年以下
3	A-2 B C G F J K	採用から4年～7年
4	A-2 B H I J K	8年以上
5	A-1 D E H J	副寮長
6	A-1 J	寮長 室長 主事 師長
7	J	管理職

G 朝礼時事例検討 事例検討に事案を提出、報告し日常の支援に活かします。

H 外部有識者の助言によるケース検討 各寮・室でケースを出し、報告、実践し支援を見直していきます。

I 支援に関する会議 対応の難しい児童の支援について、会議や集中支援に関わり担当職員として学びます。

J 所定の書籍の購読 研修推進チームが選定した学んでほしいテーマの書籍を購読します。

K 虐待防止マネジメント委員 委員として活動します。

心理療法師士による専門的支援

心理療法師士 坂寄 里紗

秩父学園に入所している児童は、知的障害の程度が最重度から軽度と幅広く、障害種も様々です。特に入所児童においては、秩父学園入所前の生活で何らかのトラブルに至ったことを契機に入所しているケースが多く、支援の重要性・困難性が高いといえます。今回はそのような児童に対する、心理担当職員（以下、心理療法師士）の支援についてまとめました。

① アセスメント

秩父学園へ入所する際に発達検査や知能検査などを実施し、個別支援計画の作成に活かしています。近年の傾



冬休み 焼きいも大会

向として、入所前の出来事によりトラウマ的な症状が出現している児童やそれらのエピソードを何度も話す児童がいるため、トラウマ体験及びPTSD症状を評価するケースが増えています。入所後も必要に応じて、継続的にアセスメントを実施しています。

② 心理面接

より専門的な個別の支援を要する児童に対しては、心理面接や遊戯療法を実施しています。対象児童は所属寮からの打診や主治医の指示等によって会議にかけられ決定します。心理面接の内容としては、現在抱えている問題の整理や対策の検討、心を落ち着かせる練習（呼吸法等）、自己理解の促進、SSTなどです。

③ グループワーク

より多くの児童に自分の感情との付き合い方や社会のルールについて学ぶ機会を提供しようとして、令和四年度からはグループワーク（通称「こころの勉強会」）を実施しています。現在の悩みや課題をテーマに、他者の意見を聞いたり自分の意見を発表したりする機会になるよう工夫しています。その他、情緒の安定や他者とのより良い関わりを目指して、放課後活動や余暇支

援、季節の行事を企画しています。

④ 直接処遇職員との協働

心理面接を受けている児童については、担当職員や寮長との情報共有をより密にしています。また、支援に関する会議を通して今後の方向性を話し合ったり、心理療法師士としての見立てを伝えたりすることもあります。

防災訓練

元日に起きた大きな地震。全国に衝撃が走るとともに、日頃の備えを痛感させられました。秩父学園では毎月防災訓練を実施していますが、年一回町内会や近隣施設と合同で訓練を行っています。

合同防災訓練

庶務課 茂木 康平

十一月十四日（火）、近隣の障害者施設等と合同の防災訓練を実施しました。

十一月十四日（火）、近隣の障害者施設等と合同の防災訓練を実施しました。

ていましたが、令和二年度～令和四年度は新型コロナウイルス流行のため開催が見送られており、今回は四年ぶり八回目の開催となりました。訓練の内容は避難訓練と体験訓練でした。

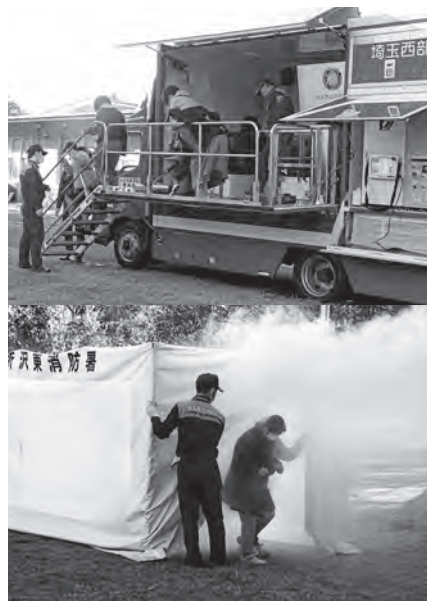


【避難訓練】

大地震が起こり、厨房で火災が発生した想定で、六施設、約三〇〇名の児童、利用者及び職員が秩父学園小グラウンドへ避難しました。北原町町内会の皆様にも交通整理や誘導をしていただきました。秩父学園では毎月避難訓練を行っています。小グラウンドへの避難は久しぶりでした。避難ルートなど改善すべき点も見つか、非常に有意義な訓練となりました。

【体験訓練】

消火体験、煙体験、起震車体験を実施しました。消火訓練では消火器の使用方法を学び、実際に消火器の使用体験をしました。煙体験では、煙の充満したテントの中を、ハンカチで口を塞いで移動しました。起震車体験では、実際にあった地震を再現した激しい揺れを体験することができました。起震車に乗るまで不安そうな表情の児童もいましたが、スタートすると多くの児童が思いのほかしっかり体験できていました。秩父学園は、大きな災害が発生した際には近



隣施設の避難場所となっています。今後も毎月の訓練に加えて、近隣施設との合同防災訓練を引き続き実施し、有事の際に迅速に対応できるように努めていきたいと考えています。

非常食訓練

管理栄養士 島田 結実

合同防災訓練に併せて、その日の昼食は非常食で対応する訓練を行いました。電気、ガス、水道が使えない想定で、寮の職員がペットボトルの水を使って主食の米飯を作りました。準備を始めてできあがるまで約一時間かかるため、落ち着かなくなる児童もいました。できあがったごはんは普段給食で炊いてもらう米飯とは異なるため、食べにくくて残す児童、いつもと違う食器や提供方法に影響されない児童、おかずの味付けを気に入ったのかいつもより食べ残しが少なかった寮など、反応は様々でした。

秩父学園では一週間分二十一食の献立を作って非常食を保管しています。食べやすさや児童の好みも取り入れて変化を持たせるよう配慮しています。実際の非常食を給食係でも試作し、非常食訓練後に寄せられた反省を活かして毎年内容を見直しています。

実際の非常時はいつもの担当者が対応できるとは限りません。誰が現場にいても食事が提供できる体制作り・共通認識作りのきつかけに防災訓練があります。訓練で非常時の不便さを体験し、学園全体で協力してどのように対応するのがベストかを探りながら試行錯誤しています。

「ボランティアへ感謝状」

十二月の障害者週間に合わせて、長年環境整備に関わっていただいている三団体と美容師さんに感謝状を差し上げました。長い団体は五十年以上にわたり、継続的に来てくださっています。いつもありがとうございます。

ボランティア募集については秩父学園ホームページをご覧ください。



ホームページ: <http://www.rehab.go.jp/chichibu/>

各寮の様子 秋冬編

かりん寮

かりん寮の冬はイベント盛りだくさんでした！

児童たちが楽しみにしていたクリスマス！

庶務課の職員によるピアノ演奏からスタートしました。流れる綺麗な音色に、いつも元氣いっぱいの子供たちもこの時ばかりはうっとりとした表情で聞いていました。ピアノ演奏が終わるとサンタさんとトナカイさんになりきった職員が登場し大盛り上がり！夕食はリクエストがあった物や好きな物をたくさん用意したビュッフェスタイルでした。大好評で「私の好きなものいっぱいだ！」「全部美味しい！」とみんな嬉しそうに食べていました。

大晦日は特別にお茶会を開いたのですが…みんないつも通りの時間に就寝してしまい、参加してくれたのは四名でした。四名でい

上小路 希美



つもとは少し違う夜の静かな時間にちよつとしゃべりを楽しみました。

次はお正月ならではのイベント。初詣は秩父学園から歩いて近くの神社にお参りに行きました！初詣の帰りにはコンビニに寄ってお小遣いで買物。お小遣いのお金で買えるものを職員と計算しながら組み合わせを考える児童や、「好きだからこれにする！」と即決する児童それぞれでした。書き初めや福笑いも楽しみ笑い声の絶えないかりん寮。お正月からみんな元氣に過ごしています。

けやき寮

星 湧人

十一月には、学園と近隣施設との合同防災訓練がありました。訓練には、消火体験、煙体験、起震車体験があり、児童の皆さんは不安そうな表情を浮かべながらも、どの体験も楽しそうに参加していました。特に起震車体験では、またやりたいと言う児童もいました。

十二月。冬休みに入ると、寮でクリスマス会を行います。

バイキング形式で食事を行い、普段とは違った食事で皆さんとても喜んでいました。その後、サンタの格好に扮した職員が登場し一緒



に写真を撮りました。始めは怖がる児童もいましたが、サンタさんからお菓子の詰め合わせをプレゼントされると嬉しそうに受け取っていました。

元旦には初詣に行きました。お参りの仕方を知っている児童もいて、初めてお参りする児童に教える場面もありました。みなさん良い一年になることを職員一同願っています。初詣後にはお餅を食べました。あまり食べる機会がないこともあり、おいしそうに完食されていました。また、今年は書き初めも行いました。絵を描く児童もいれば、好きな文字を書く児童、そして自分が欲しい物を書く児童もいました。顔に墨がついてしまう児童もいて楽しい思い出になったと思います。

健康面に関しては、発熱者が数名おり、インフルエンザに感染された方が一名、溶連菌に感染された方が一名いました。現在はみなさん体調も戻り、元気に過ごされています。今後も寒い日が続くので、体調管理に気をつけていきます。



どんぐり寮

仲川 正徳・土屋 麗

どんぐり寮の冬は、少し辛いことと、楽しいことがありました。

辛いことは…みんなが嫌いな予防注射です。

十二月十七日にコロナワクチン接種がありました。以前は、注射が大嫌いな児童がいて、接種となるとそれはもう大変でした。色々な支援を重ね、注射が苦手な児童もスマホの動画を観ながら落ち着いて受けたリ、事後の倦怠感が嫌だという児童には、倦怠感がでたら飲めるお薬のお知らせをしたり、どこで、誰と、終わったらご褒美と視覚的にお知らせすることで、みんな落ち着いてワクチン接種出来ました。これは本当に驚きでした。

楽しいことは：十二月二十二日にどんぐり寮でクリスマス会を行いました。クリスマスのメニューはみんなが期待していたケンタッキークリのセトでした。チキン、ポテト、チーズチキンバーガー、ジュースを嬉しそうに食べていました。デザートにはもちろんケーキ！かわいらしいサンタクロースがのったチョコレートケーキを食べました。クリスマスということで、クッキーとバームクーヘンのお菓子も付いて、食べ終わった時には「あー、お腹いっぱい。おいしかった」と伝えてくれました。一年に一度のお楽しみが笑顔で過ごせてよかったです。

新しい年を迎えての一月四日に杵と臼と小麦粉粘土を準備して、



餅つきを行いました。小麦粉に少しずつ水を加えて粘土を作る作業から手伝わってもらいましたが、手がベトベトになることが嫌だったり、力強くこねることが難しかったりと悪戦苦闘しながら粘土を作り上げました。出来上がった粘土を臼に入れて順番に杵でつきました。杵を渡すと説明も不要で皆さん上手につくことが出来ました。餅つきの後は本物の餅とアイス、きな粉と黒蜜で信玄餅風の美味しいデザート美味しくいただきました。



くぬぎ寮

須永 貴之

くぬぎ寮の十一月～一月の様子をお伝えします。

十一月 学校ではトコトコフェスティバル（小中学部）、緑明祭（高等特別支援学校）が開催されました。本番までにたくさん練習を重ね、当日は緊張する様子も見られましたが、練習の成果を披露していました。一生懸命取り組んだ事が形になることへの達成感をもっている様子が伝わってきました。自信がつく経験になったことと思います。

十二月 寮内のクリスマス会。数日前から「ピザ食べたい」「ケーキが食べたい」「サンタ来るかな？ゲームをお願いする」などの声が聞こえてきて、



楽しみな様子でした。クリスマスパーティーメニューは牛丼、オードブル、ケーキと盛り沢山で、職員は「食べきれませんか？」と心配しましたが、さすが男子。みんなペロリと完食していました。そして、サンタさんからのお菓子のプレゼントにみなさん大喜びでした。



一月 今年辰年。時が経つ（辰）のは早いですね。元旦はおせちを食べて新年を迎えました。年末に作った辰のイラストを飾り、獅子舞と写真撮影をしました。近くの神社まで初詣に出掛けたりとゆつたりとしたお正月を過ごしました。初詣では、それぞれお参りして神様をお願い事をしました。

辰年は十二支の中で唯一空想の生き物である龍（辰）が天に昇る様子から、成功の象徴として縁起が良いとされています。令和六年度も体調管理など十分に配慮し、「楽しいくぬぎ寮」という目標が達（辰）成できるよう努めてまいります。



熊澤先生の「ゆる〜くかた〜く」

「心にも貯金が必要だよね」

国立障害者リハビリテーションセンター病院

歯科医長 熊澤 海道

明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願ひしますとともに二〇二四年も熊澤のつぶやきにお付き合ひいただければとても嬉しいです。

さて、新年ということで新たに何かを始めてみよう！という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。新しいことを始める時、あるいは苦手なものに再チャレンジする時には、その始め方や取り組み方(導人)が大事なかと密かに思っています。

とりわけ、嫌なことのオンパレードである歯科を例に挙げてみれば、いきなり「むし歯があるから治療しよう」と言われてもなかなか受け入れるのが難しい時もあると思います。知的や発達障害がある子ども達なら、なおさらその壁は高いかもしれません。そんな時、良かれと思つてのことではありますが「治療」を優先するあまりこちらの意見を無理に押し通してしまつと「友達」になるのがすごく難しくなつてしまつと熊澤は考えています。

では、どうするか？そんなとき熊澤は「心の貯金」を貯めたいなと思つています。いきなり歯を削つたりするのはなく、ちゃんとお話(説明)をしたり、使う器具を見てもらつたり、それで遊んでみたり…とそんなやり取りの中で「心の貯金」を貯めて、不安を安心に変えて信

頼関係を作りたいと考えています。

そうか！「心の貯金」とは「信頼関係」を築いていくことなんだ！と今この文章を書いていて気づいてしまった熊澤ですが、NISAなどの投資が勧められる昨今、こんな貯金の形もあつても良いのかなと思う今日この頃です。



職員の動き

◆令和五年十一月一日付

小山 翔子 (庶務課) こども家庭庁へ



沼津 大嗣
庶務課(こども家庭庁 成育局より)

児童の動き

○十二月に女児一名、二月に女児一名が埼玉県内のグループホームに移られました。



行事予定

- 2月1日 虐待防止委員会
身体拘束等適正化委員会
- 6日 高等特別支援学校入学選考日
- 3月11日 高3 卒業式
- 14日 小6・中3 卒業式
- 24日 フレンドリーコンサート
- 28日 お花見 クラシックコンサート

編集後記

六十年に一度の甲辰(きのえたつ)は努力してきたことがぐんと成長する縁起のいい年だそうです。「三四五号」数が並んでなんだか嬉しい。三四四の積み重ねがあつての今、これからどう発展するかを期待して。甲辰、皆様にとってぐんと伸びるよい年となりますように。(麻)



発行日 令和六年三月七日
発行 国立障害者リハビリテーション

センター自立支援局秩父学園
住所 〒359-0004
埼玉県所沢市北原町860
TEL 04-12992-2839
FAX 04-12995-2253
chousa-chichibu@rehab.go.jp